研究ノート

音楽科教材研究に向けた取り組みから
― 音楽表現・音楽の継続的学びに着目して ―

藤　田　光　子

From efforts to study music teaching materials:
Focusing on continuous learning of music expression and music

Mitsuko FUJITA

【要　　旨】

短期大学において履修する音楽関連科目として、音楽実技は子どもたちとの実践や実習においても実際に保育現場などで実践されている取り組みが多いためモチベーションも維持しやすい。しかし知識という点、音楽を教える、音楽を使った保育、音楽の活動などにおける音楽的知識について興味のなさや困難を感じる学生も多い。実際には、自ら学び知識として蓄積していくことと実践の伴う形の力が求められている。学生である間に学ぶ姿勢や習慣を身に付け自ら調べ学習する姿勢、それを実践の場面でどう生かしていくか、「音楽表現」から「音楽」という科目の１年間かけた継続的学びの中の、一連の調べ学習・発表・実践の活動とその他の教材研究に向けた学習について考察する。

【キーワード】

調べ学習　音楽表現　音楽　教材研究

１．はじめに

保育・教育者養成校において、音楽活動・表現活動などの場面は必須であるが、学生にとって音楽というものは知識と実践の間で少なからず意識の差があるように思われる。実技と言われる分野は比較的学生に受容されやすく、子どもたちとの実践や実習においても取り組みが多い。

しかし知識という点では難しいと感じたり、調べないとわからない、必要性においてもさまざまな声が聞かれる。しかし音楽を教える、音楽を使った保育、音楽の活動などにおける知識は、バランスのとれた知識に基づいた裏づけのある実践は保育・教育場面にはおいて必要ではないかと思う。学生である間に学ぶ姿勢や習慣を存分に体験してもらいたい。

本研究では科目として「音楽表現」から「音楽」という学びの中で調べ学習を含む活動がその後の学習に少なからず影響を与えた部分、一連の調べ学習・発表・実践の活動について考察

する。

またその後授業における教材研究に結びつく学びの継続性と知識の蓄積が見られるかどうかについて授業改善を踏まえ研究の一旦としたい。

2．学生の意識と現状

学生の音楽に対する意識は、全体的に高く実践的活動はとても楽しく得意もしくは好きであると答える学生が大半である。しかし、実際に教育や保育に取り入れる、音楽の活動や授業を行うという場面に差し掛かった時迷いが多いのも事実である。

２年次、音楽は好きだが模擬授業や模擬保育、実習などの場面に立った時、音楽指導においてどのような点に不安を持ち、学習をしていきたいと感じているかの調査では【表１】に記す。

⑴　平成29年９月　平成30年度４月
　　調査学生53名

【表１　学生意識】

音楽が好き	82%
音楽が嫌い	10%
どちらでもない	８%

実技	79%
人前での指導	66%
授業内容や知識	68%

＊個人特定できない調査である旨同意を得たものである。

【表２　関連科目】

科目	時期	調べ学習を含む学び	形態
音楽表現	１年次前期	歌曲の作詞・作曲者の年代 発表年代 楽曲のエピソード	個人
音楽	１年次後期	こどものうたの歴史調べ学習 パワーポイントの作成 プレゼンテーション 質問・評価	グループ
音楽科指導法	１年次前期	My 教材研究 指導案作成 模擬授業	個人 グループ グループ
指導法持論	専攻科１年次	教材研究 指導案作成 模擬授業	個人

【表２】のように調べ学習は現在表記の科目に於いても実施されている。「歌曲における作詞作曲者・歌詞内容」について１年前期「音楽表現」の中で課題学習を３枚行い、１年後期「音楽」においては「こどものうたの歴史」についての調べ学習を実施している。

学生の一部は２年次前期の音楽科指導法・さらに専攻科において指導法特論（音楽）にて授業を実践する音楽指導にあたる。実際の指導案作成の際に教材研究について困難を感じる姿がしばしば見受けられる。またいざ授業・指導となると知識量に自信がなく、授業を構築することが難しいと感じる学生が多い。しかし「音楽表現」「音楽」での事例を振り返る学習を含むことで、これまでの調べ学習を有効に活用し、この段階において調べ学習からスタートする教材研究に抵抗なく入っていくことが見て取れた。授業内ではこれまでの蓄積である、「音楽表現」の調べ学習、「音楽」の「こどものうたの歴史」の振り返り時間を確保し、教材研の方法についてともに検討する時間を持つことで、指導法・指導法特論への布石とする方法をとった。

教材研究に先がけ学生の歌唱教材に関する現状を知るために共通教材の存知については【表３】に記す。調べ学習や科目内で扱った楽曲はもちろんだが、自身が小学校の頃歌ったということも数値に反映されていることがわかる。

3．実践結果と考察

調べ学習を実施することが、１つの科目だけで終わらず、継続する活動の１つであるとすると学びが蓄積する。また発表という形式でプレゼンテーションを行うことが学びの共有をもたらす。さらには教材研究、学習指導案作成、模擬指導の段階も踏まえた学習の事例である。

調べ学習の中で学生が用いるコンテンツとしてインターネットや YouTube がある。非常に便利で即座に知りたい情報を得ることができる。しかし、便利さも取り入れつつさらに深い学びへと進むため本科目では「書籍」による調

【表３　歌唱共通教材認知】

n=53

	歌唱共通教材	%
〔第１学年〕	「うみ」（文部省唱歌）林柳波作詞　井上武士作曲	100%
	「かたつむり」（文部省唱歌）	100%
	「日のまる」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	6%
	「ひらいたひらいた」（わらべうた）	60%
〔第２学年〕	「かくれんぼ」（文部省唱歌）林柳波作詞　下総皖一作曲	0%
	「春がきた」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	100%
	「虫のこえ」（文部省唱歌）	91%
	「夕やけこやけ」中村雨紅作詞　草川信作曲	51%
〔第３学年〕	「うさぎ」（日本古謡）	19%
	「茶つみ」（文部省唱歌）	94%
	「春の小川」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	92%
	「ふじ山」（文部省唱歌）巌谷小波作詞	91%
〔第４学年〕	「さくらさくら」（日本古謡）	72%
	「とんび」葛原しげる作詞　梁田貞作曲	40%
	まきばの朝（文部省唱歌）船橋栄吉作曲	0%
	「もみじ」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	98%
〔第５学年〕	「こいのぼり」（文部省唱歌）	83%
	「子もり歌」（日本古謡）	21%
	「スキーの歌」（文部省唱歌）林柳波作詞　橋本国彦作曲	0%
	「冬げしき」（文部省唱歌）	15%
〔第６学年〕	「越天楽今様（歌詞は第２節まで）」（日本古謡）慈鎮和尚作歌	6%
	「おぼろ月夜」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	94%
	「ふるさと」（文部省唱歌）高野辰之作詞　岡野貞一作曲	100%
	「われは海の子（歌詞は第３節まで）」（文部省唱歌）	13%

べ学習を取り入れた。また「楽譜」を見比べてみることも実際に促し、調べ学習を進める。その際デジタルコンテンツを使用する非常に学生も多く、便利、時短、美しさなど利点も多い。しかしできないことができているかのように表示される面や、教える立場の教師ができていないという場面を知らないで過ごしてしまう危険性を含んでいることは理解しておくべきであろう。

またインターネットで得る情報だけでなく、調べたものを実践に移す際困難と感じる点においては、ソフトとして販売され実際に小学校などでも使用されている「音楽帳」「ボーカロイド」などの使用も促す。実際に使いこなし、指導するには時間そして教室などのハード面、児童や子どもたちへの整備などまだ課題も多い。必要に応じた最小限の内容にと留めているが、実際に模擬授業などで使用した事例もあるが、学生の使用には依然課題が多いと感じる。これについては今後の研究課題とする。

⑴　「音楽表現」の科目に於いて歌唱曲に関する調べ学習を実施している。「ふるさと」「おぼろ月夜」「赤とんぼ」「きらきら星」「ドレミの歌」など歌唱学習の前段階として、楽曲の作詞作曲者、年代、エピソード・歌詞内容などをインターネットや書籍から調べ学習をし、ワークシートに手書きでまとめる。調べ学習をした楽

曲についてその後歌唱学習を実施する。調べ学習について学生は歌唱活動の前に発表する時間を確保し、歌曲に対する知識を他の学生とも共有する。

⑵　「音楽」において「こどものうたの歴史」について調べ学習を行い、各自がテキストにまとめ、グループ学習によるパワーポイントによるスライド作成、プレゼンテーションを実施する。どのグループも必ず図書館での書籍による調べ学習時間を確保する。出典の記載と必ず書籍からの参考・引用情報を挿入するしプレゼンテーション資料を作成する方法を取ると意識づけとしている。ここではグループ活動にて行い、分担しながら作成を進め、情報共有をしながらグループ学習を進める。さらにプレゼンテーションにおいては双方にて評価活動をおこない自身のグループの振り返りへと進む。

学生は他の科目でもパワーポイントを使用している。思いのほか全員が使いこなすわけではなく、文字入力、様々な使用について困難に感じている学生も多く見受けられたのは新たな発見であった。

【表５】ではインターネットの活用による出典の一部である。多くの材料を集めたり、資料を収集したり非常に便利に学生が使用している状況が如実に窺える。

また【表４】においては書籍の活用である。書籍の活用については戸惑いも多く、「見つからない」「書籍の中のどこに書いてあるかわからない」「その曲の題名の本がない」さまざまに意見が出された。これまで学生が選曲した楽曲が【表６】であるが、実際にこれら楽曲名がそのまま書籍名になっているものは希少である。インターネットの検索のように楽曲名に関わる周辺情報などが膨大に示されるわけではなく、書籍の中に書かれていたとしても、読み込まなくては自身が望む情報にたどり着けない。また例え読んでみたとして、自身が望む情報がそこに記されているかもやはり読み込んでみなければわからない経験をするのである。

【表４　書籍の活用】

書籍	著	出版
大人のための教科書の歌	川崎洋	いそっぷ社
「唱歌・童謡ものがたり」		読売新聞社文化部
唱歌　明治・大正・昭和		野ばら社
日本の童謡200選	日本童謡協会編	音楽之友社
『はるかなり青春のしらべ』	山田耕筰	かのう書房
童謡と唱歌	池田小百合	夢工房
日本童話協会編　季刊『どうよう』第４号		チャイルド社
『童話でてこい』	阪田寛夫	河出文庫
『東京童謡散歩』	藤田圭雄	東京新聞社出版局
『子どもの歌を語る』	山住正己	岩波新書
新・桃太郎の誕生	野村純一	吉川弘文館
大正の記憶	前田求恭	吉川弘文館
童謡と唱歌　歌唱の歴史②　秋冬の歌	池田小百合	夢工房
保育で使えるこどものうた230曲	坂田おさむ	リットーミュージック
新潮日本文学アルバム　別巻「大正文学アルバム」		新潮社
保護者のための幼児の歌50選　幼児の歌アンケート集計結果　春		玉川大学出版部
野口雨情モンゴル訪問と信仰の世界	竹内優	文芸社
幼稚園・保育園のための音楽教育法	音楽行動研究会	西日本法規
日本童謡事典	上笙一郎	東京堂出版

(3) 指導法において教材研究の段階へとすすむため、「My 教材研究シート」を作成する。調べ学習や指導に関する情報を手書きにて作成し、その後の模擬指導の計画に取り込む。

特に指導法の中では、学習指導要領解説にあるように「理解させるべき知識として、曲想と音楽の構造などとの関わりと示している。曲想とは、その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいのことであり、音楽の構造とは、音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いである。曲想と音楽の構造などとの関わりについて

【表５　インターネットの活用】

インターネット・Youtube
http://www.worldfolksong.com/songbook/japan/index.html
https://www.youtube.com/watch?v=Y5ywZXi16k
http://www.mahoroba.ne.jp/~gonbe007／hog/shouka/00 songs.html
http://www.worldfolksong.com/sp/songbook/japan/maiji-shoka.html
www.ne.jp/asahi/sayuri/home/doyobook/doyo00meiji3. htm
https://ja.wikipedia.org/wiki/
http://ikimono-hakase.com
https://kotobank.jp
www.worldfolksong.com/sp/index.html
https://sp.uta-net.com
http://hukumusume.com
https://ja.wikipedia.org/wiki/
https://www.youtube.com/user/YouTubeJapan
http://www.culturebeanz.com
kbu.repo.nii.ac.jp
モデルプレス「夢のキッズショー～平成、その先へ～」mdpr.jp
歌詞タイム「にじのむこうに」kasi-time.com/item-16021.html
ニコニコ大百科（仮）「にじのむこうに」dic.nicovideo.jp
YouTube https://youtube.be/tZpWhnnUkxw?t=72
YouTube https://youtube.be/HgohnMLC67k
Wikipedia「坂田おさむ」ja.m.wikipwdia.org
Twitter https://twitter.com/gohan-60th/status/9771554993944576 1?s＝21
YouTube https://youtube.be/CsuXbfHmZkQ
NHK アーカイブス「10年に一度のメモリアル「紅白」NHK 名作選（動画他）」www2. nhk.or.jp
Wikipedia「だんご３兄弟」ja.m.wikipwdia.org
mama.ponycanyon.co.jp ポニーキャニオン「おかあさんといっしょ」
TBS ラジオ 横山だいすけ「はじめのいっぽ」
https://ja.m.Wikipedia.org/wiki/takirenntarou
monument.sakura.ne.jp/file/koujyounotsuki.html
https://mainichi.jp/articles/20180110/kei/00s/00s/019000c
ja.m.wikipedia.org
https://wondertrip.jp/96690/
http://www.ne.jp/asahi/savuri/home/doyobook/doyo00nakayama.htm
douyo-shuka.himawari-song.com
https://ontomo-mag.com/article/playlist/douyou100pl/
https://ja.wikipedia.org/wiki/あめふり
https://ja.wikipedia.org/wiki/シャボン玉（唱歌）

【表６　選曲】

桃太郎	明	もみじ	明
夕焼け小焼け	大	あめふり	大
ふるさと	大	村祭り	明
赤とんぼ	大	蛍の光	明
しゃぼん玉	大	マルマルモリモリ	平
うさぎとかめ	昭	目指せポケットモンスター	平
花は咲く	平	虫の声	明
金太郎	明	ちょうちょ	明
一寸法師	明	あんたがたどこさ	明
うらしま太郎	明	こいのぼり	昭
だんご３兄弟	平	ドラえもんの歌	昭
ドンスカパンパン	平	天才バカボン	昭
はとぽっぽ	明	赤い靴	大
カモメの水兵さん	昭	エビカニクス	平
七つの子	大	旅立ちの日に	平
十五夜のお月さん	大	犬のおまわりさん	明
どんぐりころころ	大	虹の向こうに	平
證誠寺	大	チューリップ	明
ドレミの歌	昭	こいのぼり	昭
勇気100%	平	ぞうさん	昭
崖の上のポニョ	平	夏の思い出	昭
ビリーブ	平	七つの子	明
世界に一つだけの花	平	君をのせて	平

理解するとは、表現や鑑賞の活動を通して、対象となる音楽に固有の雰囲気や表情などを感じ取りながら、「音楽から喚起される自己のイメージや感情」と「音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組み」との関わり合いなどとの関係を捉え、理解することである。

なお、音楽の構造などの「など」には、歌唱分野における「歌詞の内容」も含んでいる。[1)]

このように歌詞内容を理解や作詞作曲者の理解を深めることが、音楽を表現する際の「表したい音楽」と繋がると考えている。

学生は楽曲を知らないところからスタートし、音を確認することや歌詞の内容、楽譜をもとにどこをどのように歌えるようにしたいのか、作曲者や作詞者の意図はどのようなものかについて教材研究をおこなう。

その他実技について児童の前で演奏できるかどうか、どの部分をデジタルコンテンツにより指導するのかなど、指導案を作成する前段階としてこれら調べ学習を充分に行うことになる。

この方法を取り入れることで変化が見られたのは指導法特論での模擬指導実践である。２年間にわたる調べ学習形式での教材研究を挿入することで模擬授業の教材研究に対する深まりが見える。もっとも変化が見られたのは歌唱指導・歌詞理解・ワークシートについてである。歌詞理解で使用される掲示物作成の際に、教材研究で使用したシートを工夫することで提示方法や歌詞の表記が非常にうまくいく事例が多かった。またワークシートについては、具体的に作成できるため無駄のない分量で作成できる学生が多く、振り返りへの使用も容易であった。このワークシートについて学生は自身作成の「My 教材研究シート」が役立っている。

今回の一連の調べ学習に着目すると、１年次前期「ふるさと」「おぼろ月夜」に関して調べ学習実施した学生が「音楽」において「こどものうたの歴史」の中で明治期のこどものうたを調べることとなった。その際高野辰之・岡野貞一の名前の表出により、「知っている」という入口に立つことができた。そこでどのような人物か、他にどのような作品を作ったかなど、調査内容が次々に広がる様子が明らかであった。これらの人物が小学校学習指導要領の共通教材において多く登場する「高野辰之・岡野貞一」であることがわかり、一気に教材研究が進行し始めた。実際に「こころのうた」を使用した学習指導案を作成するにあたって、教材として「ふるさと」「おぼろ月夜」を含んだ教材を使用した授業展開を検討する。「歌詞内容を理解し、情景を思い浮かべながらうたおう」という目標を立て、授業案とワークシートの作成を行った。

作詞作曲者調べは「音楽表現」の時取り組んだ内容を振り返りに容易に調べ学習をすることができた。またさらに踏み込んだ内容を知りたいときインターネットにおいて論文による情報も収集できていた。また「My 教材研究シート」

では自分で楽譜に記載しながらどのように歌唱するか、３拍子はわかりにくいのではないかなど、楽曲の特徴もとらえながら作成することができた。縦書きの歌詞を提示し、漢字かな交じりの表記がわかりやすく、模造紙による歌詞提示の工夫も何度も小さな書面で検討してから作成することができた。ワークシートについては書き込みスペースを取り板書を行った内容を整理して書けるような工夫をすることで、理解を深めたいという意図がわかる作成状況であった。

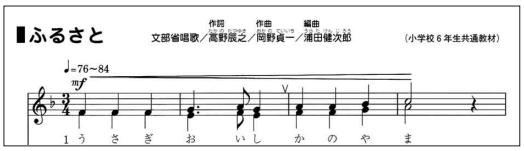
特徴的であった部分は、教材の歌詞内容や作詞作曲者に関する調べ学習に時間がかかりすぎず歌唱のための楽譜のアナリーゼ的内容まで進むことができっている事例を確認ができた。どのように指導すればこのように歌唱できるか、歌唱内容の授業を進めるにあたって、楽曲分析に時間を費やすことができた。

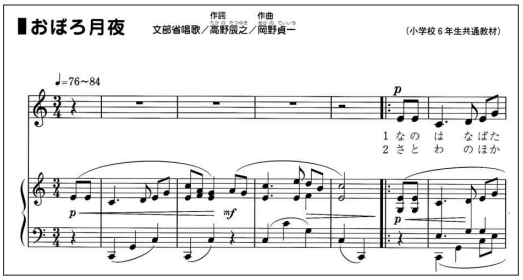
【楽譜例】にある「ふるさと」「おぼろ月夜」は小学校６年生の歌唱共通教材である。【表３】においては94％と認知度は高い楽曲であったが、これは「音楽表現」授業前は知っている学生は半数ほどであった。歌詞内容や作詞作曲者の調べ学習はすでに経験をしていたために、教材研究場面で楽曲分析に多くの時間を使用することができた事例である。

教材研究中に表出した【質問内容】にあるように歌唱技術に関する質問が出された。音楽では技術面の練習や実際に演奏することで理解し指導内容を検討する場面も多いことから学習の深化が確認された。実際に歌唱学習において体験している部分が多いが学生が実際に指導する側に立った時、「どのように伝えればクレッシェンドをつけられるか」「歌い始めのタイミング」など指導する側からの目線に変えた質問が多く表出した。これまでは自身が歌う立場、ここで指導する立場へと変化した。

しかし音楽専科を想定した授業実践ではないために、実際に歌唱する場面では、片手演奏でピアノの旋律を弾くことは可能だが、伴奏を弾くことは難しく、CD の使用を検討する。しかし、途中で CD だけではただ流し歌う活動が多

【楽譜例】





【質問内容】

授業構成	言葉の頭の歌い方
	時間配分に関する
	言葉かけに関する
	学年にあった内容か
	国語のような内容になる
	発問内容
	板書計画
歌唱技術	３拍子の強拍の確認
	クレッシェンドを付けるための歌い方
	デクレッシェンドの時の歌い方
	２分音符の長さとブレス
	歌い始めをどうしたらいいか

くなるため工夫する材料として、デジタルコンテンツの使用も検討させた。「カワイ音楽帳」による歌唱共通教材の楽譜歌詞提示のコンテンツの使用である。画面上では楽譜を目で追うように色の変化による表示がなされるためタイミングを取りやすい構造になっている。さらに縦書きの歌詞にも同様に色の変化による歌唱練習が行える。学習を深める場面と練習など前を向いて歌唱できる利点を使い適宜使用できる利便性がある。他の学生の意見から階名唱での使用がよいという意見も見られたが、書かれている階名を読み歌う活動になってしまう可能性もあるため慎重に活用できるとよい。デジタルコンテンツの良いところは階名を示したり、消したりもできるため活用法は幅広い。特に演奏が苦

手な指導者においては画面を指しながら指導ができることや視覚的にわかりやすい編集が多いため活用方法についてはさまざまに取り扱うことができるが前述のとおりこれらの有効的活用に関しては今後の課題とする。

４．まとめ

今回一連の調べ学習が他の学習につながるケースが見られ、そこに深まりがあり自ら工夫することができるような学習となれば、一面として効果的であったと言える。音楽では自ら演奏するという生の音の良さは十分に残しつつ、知識の薄さや不安から授業内容が浅くなり、活動自体も深まらないという結果にならないためにはいろいろな方向性からの手段を持ち活用する努力が必要である。デジタルコンテンツの使用が学校現場でも多くなると言われて久しいが、予備調査ではまだ浸透するに至っていない。生の音を演奏する場面や実際に描いてみる、描写するというよさ、わかりやすさ、感じやすさは経験し伝えることが教師には必要であると思われる。

指１本で調べられること、指一本で演奏や楽譜の流れる便利さとともに、時間をかけて作成することや、練習をして上達することを体感していくことの重要性とその蓄積が学生たちへの自信に繋がっていく。

音楽という科目の好きなところは、「みんなで歌うこと」「大きな声を出せること」「知らない楽器に触れられること」「自由に発想できること」「知らない歌を知ることができること」などまさに「音楽表現を工夫すること」「音楽を味わって聴くこと」「音楽活動の楽しさを体験すること」そして「表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにすること」[2)]と直結していることがわかる。また知識の深まりが一連の科目の中で継続的に行えるよう工夫が必要である。音楽活動を指導する立場となる学生の学習が一層深まり、困難な技術面知識面でより充実した指導展開ができるよう授業改善を工夫したいと考えている。

【引用文献】

1）学習指導要領解説　音楽　平成29年　p.12
2）小学校学習指導要領　音楽　平成29年

【参考文献】

1）こどものうた200　チャイルド社
2）続こどものうた200　チャイルド社
3）音楽表現・音楽テキスト　別府大学短期大学部音楽講座　2017
4）保育所保育指針　厚生労働省
5）幼稚園教育要領　文部科学省
6）認定こども園保育・教育要領　文部科学省
7）音楽帳　KAWAI
8）音楽童謡事典　上笙一郎編　音楽堂出版2005
9）教員養成課程　小学校音楽科教育法　教育芸術社　2011改訂

【楽譜】

1）教員養成課程　小学校音楽科教育法　教育芸術社　2011改訂 pp136～pp139